
刀の巫女 ふたなり搾精
レベルドレイン
妖刀に踏み躙られし心
本編62ページ




鬼はただでさえ
大きく恐ろしい
化け物なのだが
大きすぎると
現実味を失う
親玉である大鬼を前に
呆然と立ち尽くしたまま
踏み潰される者は多かったという
だが鬼の侵攻に
備えている者達は
確かにいた
巫力を刀に込め
悪鬼を斬る巫女衆


が
鬼の雑兵にすらこの始末
ドズッ
ドクッ
ドクッ
ドビュッ
そんな…お姉様方が…
私達は弱かったんだ…
レベル
段位：12
刀の巫女
筋力：30
敏捷：60
持久：21
生命：31
魔力：89


力が足りない!!
ガッ
ギャッ
アアアアア
辱めを受け殺されていく仲間を見捨てて
隠れて逃げ回るしか出来ない……!
力が欲しい……!


力が!!
力が欲しいか 人間よ
ならば儂に刺さった刀を抜いて解き放て
その瞬間より主従の契約は成る
だが努々覚えておくことだ


契約が果たされた時に儂は自由となる
そして我が身を振るって得たものは全て儂に返してもらうこと…に…？
ガッ
ガ
ガ
その意味も考えず軽率に抜いたな
!?
だがまあよい力は貸そう
ぴゅるっ
ブッ
ブ


軽率ではなく
覚悟の上です
私は刀の巫女
ノドカ！
大妖刀の貴女の
御力お貸し願います
そうか…
人間の心は
分からぬな
群裂の契約
この刀を振るい得たものは
全て失うこととなる。
覚悟することすら無意味と知れ


號は『群裂（むらさき）』
鞘から抜く時は
そう呼べ
分かりました
これからよろしく
お願いします
ムラサキ！

巫女様
人の似姿であろうと
群裂は化生
決して御心を
絆されぬよう…

はい、ムラサキ

むぐ

むぐ

なんじゃ
これは

団子ですよ
食べなくては
道中で元気が
なくなります

…儂に食事は
意味が無いが…
まあよい

かじ

人の姿をしている
のなら人を知るべき
でしょう


うむ…これは
温かくて
柔らかいな
甘いとかしょっぱい
とかはどうですか？
…さあ…
人間は分からぬ
ムラサキ!!
あの人達を
助けます！
おう、儂を
抜くか
レベル
段位：24
未熟な妖刀使い
筋力：60+30
敏捷：89+45
持久：32+16
生命：46+23
魔力：120+60
はい!!


まだまだじゃ人間
大鬼とやらには
到底勝てぬ
ヒュルッ
分かっています…
修行を兼ねての
救国の旅なのです
それに…ムラサキが
笑った所もいつか
見てみたいです
それは無理難題だ
ワシには分からぬ
いずれ分かります
旅を通して人を
知ればきっと…
そうなのか…


貴女を引き抜いてから2年…
オ
オ
オ
とうとうここまで来たこれが最後の大鬼…！
これを斬れば人の世は泰平か


ならば抜け
我が號を呼べ
はい!!
號は群狩
悪鬼を斬
!!?


泰平を脅かす外道の者よ
命脈これにて尽き果てたり
キ
大鬼斬滅！
ズバウ
ふむ見事じゃ人間
ひゅるるる
果たしたな
ドロッ


それに良く育ったな
お主は立派な刀の巫女じゃ
レベル
段位：70
人妖合一の刀巫女
筋力：200+100
敏捷：256+100
持久：123+61
生命：180+90
魔力：326+100
とんでもないです…
結局私のもう一つの目的は未達成ですし…
ありがとうございました
ここまで来れたのもムラサキの…
ザッ
ザッ
？
何を言っておる
ドッ


な、何を!?
バッ
は
ら
言ったであろう
「我が身を振るって得たモノは
全て返してもらうことになる」
う…
ギュッ
何とは?
2年の旅の中で
忘れたのか?
儂は返してもらったモノで
刀として完成するのだ


群裂の契約
どのように契約が果たされるかは
契約者が何を得たかに依るため
群裂自身にすら分からない。
…覚悟はしていた
そのはずなのに
落胆している
自分が卑しい
…はい
にへ…
我が身は全て
貴女のモノです
…長く一緒に
居すぎたなあ…
ですが…
これは一体…？
てっきり命を
獲られるもの
かと…んっ…
この方法はお主が
選んだことじゃ
儂の意志は無い
それは
どういう…
きゃんっ!?
ズボッ
れろっ
ピクンッ
ビリッ


ピクッ
儂を振るって
救世の旅を続け
矜持を得たな
仲間を見捨てた
後ろめたさを
忘れるほどに
ブルッ
くちゅ
くに
くに
お主が得たのは
力だけでは
無かったのだ
キュッ
ビクッ
えっ…あ
これ…男の人の…!?
ビクッ
儂にはその価値が
全く分からぬが…
これがお主から
矜持を奪う形と
いうことだ


鍛えた力を
性交渉にて
搾り取る
全てを終えた頃には
お主は矜持も失っている
ノバ
サッ
えっ何!?
私何をすれば
ピク
ピク
そのままじっと
しているといい
ビクンッ
ぐぽっ
あっダメ…
待って
一回…
レロッ
待てぬ
ガチャ


ガシャッ
ガキッ
ぬろ…
ビクッ
契約だと言っただろう
儂自身でもその拘束は外せぬよ
待ってムラサキ…私おかしい…何か出そう…
ビクッ
ビクッ
そうか出せ


ずるるる…
怖いですっ
何か漏れそうで…
ぽっ
嫌っやめてくださいっ
汚いですっおしっこ…
ぶるっ♥
やっ漏れた…♥
ドクッッ
ビクンッ
ぶるんっ♥
おぁあっ…♥
ギュッ
ドグッグッドクッ
段位減少…
70→67
ふぉひをひふぁ
腰を引くな


小便ではない
精子じゃ…
んむ…温かい
そして力に
溢れている
ムラサキ…
私怖いです…
何か気持ちが
よくて…
そうか
口淫は少し
効率が悪いか
立て
ひっ!?
儂の身体を
持ち上げよ
人間
群裂の契約
返してもらうのは力だけではない。
貴女がこの旅で得られた「誇り」は
貴女が最も嫌悪する方法で搾取される。


な、何を…
この体勢は…？
お主は知識としても
性行為を知らぬのか？
今からワシのここで
お主の全てを奪う
ヴィーン
えっ…
待ってください
今…痛いくらい
腫れてて…！
くちっ
勃起という
んじゃそれは
待ってっ!?
心の準備が
ずぶぶぶ


んきゃあっ!?
ビクンッ
ドゴッ
ビクッ
ガク
ガク
悲鳴を上げてばかりではなく自分で動けぬか?
むりっ…もう震えて立てないっ…いや…
ガク
おっ…?
……
ぴくっ


倒れることは許しておらぬ
うごかせ
ぐちゅっ
ビクンッ
ああっ嫌っさっきより変な…
ビクッ
ビクッ
ひっ!?
ガキッ
こんな気持ち感じたくない…私こんな…鬼と一緒…
ずぶっ
ずぶぶっ
ぐちゅっ
やめて…


堕ちたくないっ…
おぐぅっ♥
ビクッ
ビクッ
ビュルルルッ
ビュルルルッ
ビュルルル


ぎゅっ
ぎゅう
まあ知らぬだが萎えてくれるなよ
んきゅっ!?
ビクッッ
快楽はあるのだろう?
ふうっ
ビクンッ
コリッ
ふうっ
その感情に身を任せたら良いではないか?
ブルブル
くにっ
いやっ
うむ中でまた大きくなってきたか…
ビクッッ
ムクムクッ


結末は分かっていた
ムラサキ…
妖刀の契約…
本当にそれだけの旅だったの…？
貴女は何も感じ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
射精しろ
ドプッドクッ
ビクッ
ビクッ
ビュルルッ
ビュルルッ
あっあっあっ
ごめんなさいっ
段位減少…
62→58


何への謝罪だ？
射精は上手に出来ているぞ
ﾐﾐﾐ
プィ
その度にワシの身体が満ちているのも分かる
…なあ人間
一体何が不満なのだ
ピクッ
ピクッ
人間よまさかお主…


ワシとの契約に手心を加えてもらうため
打算で旅を共にしたのか
あっ…ちが…ちがいます…！
そんな卑しい気持ちは…ッ
そんなつもりじゃなくて…！ただ私は…!!


ドゴッ
ギュッ
ひぎゃあっ!?
責めているように聞こえたか？
それは……
……？
いや、打算(それ)は当然の考えだ
自身に都合の良い結果を得ようとすることの何が悪い
ズギュッ
ズギュッ
ズギュッ
イヤッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
イヤあっ


ただ儂にないものに訴えたのが失敗だったというだけじゃろ
どれほど情に訴えたところで
それを感じる心が儂にはないのだから
トクン…
ああああああっ…あっ…うえっ…
だって…暖かいって言って…
ふるっ
ドプッ
ドプッ
ビクッ
ビクッ
段位減少…58→53


「温かい」から
「温かい」と言った
だけじゃが
それだけじゃないと…
2年も一緒の旅で…
友になれたかもと…！
それは儂には
分からぬぞ
人間
あつ
人間よ
ワシに眠りは必要
ないのじゃが人間
まあいい
袖の長さが
気になるか人間
知らぬし
分からぬ
先を征け
人間
抜くか
人間
ワシ一人では
どこへも向かわぬ

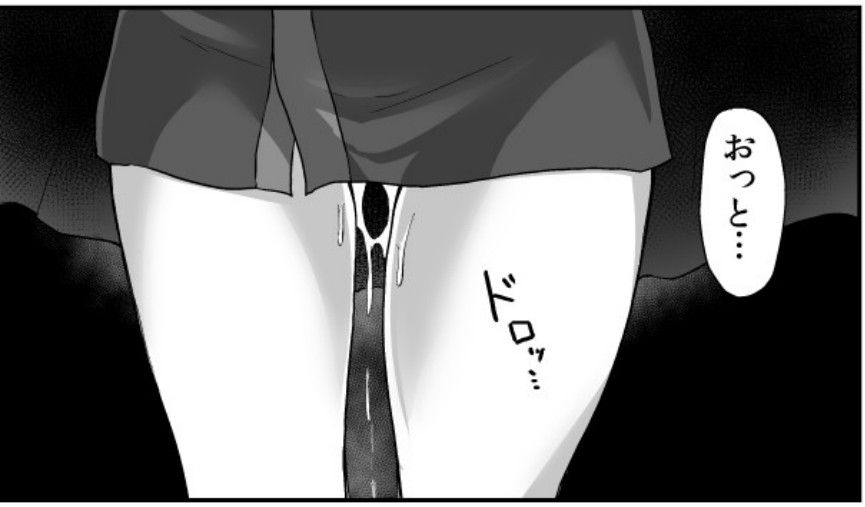

私一度も名前で呼ばれてなかった
ならば私がやっていたことは
イヤアアッ!!
嫌ぁ!! 離してぇ!!
暴れるな無駄じゃ
契約を反故にな ど出来ぬ


問答はもう良いか？
ペタ…
ぱっ
お主も快楽はあるのじゃろ
いちいち拒絶せず受け入れろ
ひっ…や…
もうこれ以上は…や…
ブル
ブル
ブル
早くしろ
ビクッ
ガクンッ
ギュるッ
つづわぁっ


イヤッ
ヤダ
ブルブル
射精したくないっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ガク
ガク
ぴゅっ
あっ
あああ
もれちゃっ
あっ
段位減少…
53→44
ドン
ドン
びゅるるるっ
おっ
う


ひゅるるる
お前が鍛え歩んだ旅路はこれで終わり
手に入れたものは全て返して貰った
これで儂は一振りの妖刀として完成した
妖刀群裂【真打】
そしてお主はあと一度でも射精したら力を全て失い死ぬ
カタ
カタ
カタ
レベル
段位：1
心折れた刀の巫女
筋力：3
敏捷：6
持久：2
生命：3
魔力：0
群裂の契約（達成済）
全てとは「全て」である。
貴女がこの旅で得たものは
何も無かった。


ま
妖刀としての完成など
儂にはどうでもよいが…
ひゅるっ
妖刀である
ゆえの生得には
逆らえぬのよ
クルッ
契約は
これにて
終いだ
どこへなりとも
行くが良い
ヨロッ…


おっと…
ドロッ…


暖かかったな
人間





今の言葉

儂が言ったか？





行くなと思っているのか？儂は





ま

待て


待て!!
手放すのが惜しくなった
お主やはりここにいろ
…いや…です…
貴女の近くにいたら…
私は惨めです…


惨め？どういうことだ？
それは分からぬぞ？
それは今更
言うことか？
ひっ
ぐぐっ
何故か腹の下が
やけに熱いのだ
は
なして
何故だろう
逃したくない
あっ
ブタッ
お主が伝えたかった
ことはこれか…？


これか？
これが原因か？
もっと触らせろ
ぶぢっ
ずぶ
嫌ですっ
ムラサキ!!
お願いしますっ
プロッ
ドクッ
私これ以上
射精したら死ぃ…
ドクッ
レロォ
ブッ
あっ駄目…！
はうっ♥
少し確かめても
よいか人間
いや…
ノドカ


射精しない…
ガマン…ううっ…
プル
プル
プル
事に及ぼうと
構えたら
顔まで熱く
なってきたぞ…
どういうことだ
ノドカよ
ギュウッ
ひっ
くちゅっ…
ノドカ…
入るぞ…
ずぶぶぶぶ…
嫌…すぐ
漏れちゃう…
ビクッ


嫌、嫌、嫌
死にたくない
ズプッ
はあっ…う…
何だ…先程とは
違う気が…
ハッ
ハッ
ハッ
お願い…
ムラサキ
怖い、怖い
プピッ
プッ
グブブ…
ムラサキ、
ムラサキ様
ビクッ
お願いします
もう射精します…
ビクッ
あっ
はぁっ
ぎゅうっ
ビクンッ
少しでも離れると
熱が逃げそうだ…


んっ…
ちゅうっ
ちゅぱっ
ちゅるっ
イヤッです…乳首ッ気持ちいいんです…
ビクッ
ビクッ
ビクッ
れろっ
乳首で射精しちゃうから…
れろっ
ちゅぱっ
ちゅっ
ふぶっ!?
ちゅっ
れろっ
ちゅぱっ
ふうっ
ちゅっ


ブッ
ビュルルルッ
ドクン
ビクンッ
おっ♥
ごぉぉぉ
ガクガク
ムラサキ
ドクン
ドクン…
…おお？
バタッ


ノドカの死体
全ての力を喪失した身体では
生存が不可能となる。
数分で魂も肉体から遊離する。
…？？？？？
死んでしまった
ではないか…？
いや…それはそうだ
あと一回で死ぬと
ワシが言った
何をしているのだワシは？


内から
獣が溢れる…
これが心か？
くちゅっ
いや…まずは
ノドカを起こさ
なくては…


くちゅ
くちゅ
くちゅ
ううっ…儂は何を…
早く…せねば……あっ
あ…そうか
フゥッ
フゥッ
ノドカの力を吸い取る
逆を儂がやればよいのだ
コリッ
レクッ
こんなものか…
うっ!?
ビクッ
ピク
ピク
何だこれは…生やしたら
余計に獣性が増した
ような心地に…!
ゴロン
ぶらん


…生えていると
前が狭すぎるな
こちらで良いか
グパァ
ズボッ
ズズッ
ピクッ
何…私…死ん…？
お尻…熱い…
ユサ
ユサ
ユサ
えっ何!?
あっ!?
ガリバッ
バチュッ
ドズッ


目が覚めたか
ノドカよ
勢い余って
殺してしまった
だから貰った力を
少し返すことで命を
長らえさせている
だがノドカよ…
ズルル
ルル…
ゔぉおっ
あ
ビク
ビク
ころっ…
えっ!?
ガクッ
お主こんなものに
耐えていたのか!?
ドズッ
ドズッ
ドズッ
全く堪えられぬ!
すぐにでも出るぞ!
あぐっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ぎっ
ひっ
ガク
ひぎっ


段位減#$!?
1→0→1
分からぬぞノドカ…
与えているのは儂なのに…！
ひゃあっ!?
まるで儂が喰らう側ではないか!?
ノドカが蘇生し。


仕方のない奴じゃノドカ
入れた端から出してしまっては死んでしまうぞ
ぐぽっ
さあもう一回じゃ
…嫌です…ムラサキ様…
プル
プル
暖かく柔らかい…
だがそれ以外も何かあるのだな
ぎゅっ
カリッ
はっ
ビクンッ


…温泉にも一緒に浸かったな
まって…また射精しそう…
また死ぬ…
ノドカは儂が錆びないのかと見当外れな心配をしていた
ビクンッ
ビクンッ
何故今こんなことを思い出すのだ…？
これは重要なことなのか？
ビクッ
ビュッ
ビュルルッ
ドブブッ
おっ
かはっ
えほっ


儂は旅路の全てを覚えていたが
不思議とこれまで思い出すことはなかった
ハッ
キン
記憶の中のノドカはよく笑っていた気がするが…
ワシは今何をしている？
ふぐっ…
ずっ…
これは良いことか？
何故この行いに高揚を感じているのだ？
ぜーッ
ぜーッ


ほれノドカ
しゃんとしろ
先程までは多少は
我慢していただろう
グイッ
ふるんっ
あ…
あうう…
くたっ
ズギュッ
あっ
なぜ儂に貫かれたら
勝手に漏らすのだ！
ドチュッ
出すなよ
死にたいか？
ズギュッ
ハヤぁ
あっ
だ…め…
触らないで…
そこ


出すなと言って…！
これでは無駄になるだろうがっ…
ちがっ
離して…あっ
ギュ～ッ
ギチッ
ビクビク
ビクン
ガクガク
ビュルルルッ
ビクビクッ
ビュッ
おぐっあっ
おおおっ


ムラサキ様…
お休みですか…？
ごめんなさい
ムラサキ…様…
ごめんなさい…！
どこへ行く


あ…いや…
ムラサキ様…
逃げるならその手足は
封印すると言ったはずだ
しばらく芋虫に
なって反省しろ
ノドカよ
これで何度目だ
仕置が
必要だな
やだ…
それだけは…
チョロロロ…
ノドカの陰茎
吐き出すモノも無くなったのに
度重なる射精を強要されたので、
情けなく縮み上がってしまった。


反省したら返してやる
態度を見せろ這いずってこちらに来い
ドチャッ
こちらに…
あっあっ
ずりぃ
ずりぃ
かえる
おうちかえる…
分からん奴だなノドカ!!
ズバッ


儂が精を分け与えねば死ぬ！
はぐっ
だから儂とおらねばならぬ！それだけのことだ!!
それが何故分からぬ!!何故懲りずに逃げようとするのだ!?
ふぅ♥
つっ♥
つっ♥


…もういいか…
やはりお主は
もう終わらせよう
ずるっ…
あっ
えっ…
ムラサキさま…
あっいやっ
いやだっ
掴まないでっ
精子出るっ
ギュウッ
ギュウウウ
ピピッ
ピュルルッ
あっ
あっ
パタ
パタ
ワシの望む言葉を言え
それがワシの心とやらに
響いたら助けよう
最期の機会じゃ


えっことばっ
わからないっ
わかんないっ
わかんないっ
ムラサキさま
意地悪しないでぇ…
やだおしっこ
でる…やだ…あ…
パタ
パタ
ギュウウッ
ギッ
プルプル
ピクッ


あ…
ツー
ご…
ごめんなさい…？
なんて…えへっへ…


そんなもの…
ごめんなさ…あっ
ドッ
ビグッ
あ゛あ゛っ
ビグッ
ビュッビュッ
びゃあああっ♡
もう聞き飽きたわ!!
プピッ
チョロッ


人を学べばいつか…
心から笑えるように
なりますよ


あぁっ♡
うあぁっ♡
それがきっとムラサキが
人の似姿である意味だと
私は思うんです
段位（レベル）：0
動く肉
筋力：0
敏捷：0
持久：0
生命：0
魔力：0


フッ
フフ

儂には分からぬなぁ
ノドカよ

群裂の呪い

群裂が貴女に心底から興味を失った時
貴女の肉体は魂ごと塵となり消滅する。
死にたくなければ必死に彼女の
興味をつなぎとめろ。

だが、今の貴女の吐く言葉は
どれも群裂を失望させるには十分だろう。
失望など、以前の群裂なら思うことすら
なかったのに。

おわり